

熊谷筑波校本科コースだからできた…志望大学2ランクアップ。 慶應義塾大学 薬学部 合格!!

内田 奈々子(熊谷女子高校卒)



早いスタートが合否を決める。常に言われていたその言葉を胸に、内田は3月1日、目標を来年の受験に定め新たにスタートを切った。2009年度本科コース生第一号。志望は薬学部、明治薬科大。この際なので特待生合格をねらいた。「患者さんとの触れ合いを大切にする薬剤師になるのが夢です。人と接するのが好きなんです。」と彼女。持病に苦しみ、それを救ってくれたのが、日頃から飲み続けていた薬だった。身近に薬があり、その影響力を十分に知っている彼女だから、薬剤師になりたい気持ちは人一倍強い。そんな内田を担任北原は振り返ってこう語る。「可能性をすごく感じる子でした。とても感情豊かで…模試の成績でも本当に泣いてばかりでしたけど、その度にまたがんばるぞって。強い意志がありました。だからこの先も立派な、みんなに好かれる薬剤師さんになれると思います。」—夢の実現も合格も、それをどれくらい強く思えるかで決まるのだ。

高卒本科コースは15講座が基本。基礎事項の復習からスタートして、実戦問題の内容をマスターする講座まで、高速学習でどんどんこなせる。内田はすべての教科において、知識の見直しからスタートした。英語は文法から、数学・化学は單元ごとに抜け落ちている部分をひたすら埋めていく。一番苦手とする英語はそれに加え、毎朝の音読と高速基礎マスターを併用した。この継続が、英語の飛躍的な伸びをもたらし、夏前に得点率8割にのぼる。「最初は英語が嫌いでしたけど、渡辺先生と安河内先生の授業のおかげですね! 英語アレルギー無くなりましたもん!」と内田。

同月には志望校のランクアップを決心した。第一志望、私大薬学部最難関…慶應義塾大学薬学部。夏にはすべての教科で実戦問題を意識した講座をスタートした。英語は文法問題の正答率が上がり、それに伴い長文も正確に読みこなせるように、数学・化学は問題を数多くこなし、緩やかな伸びと安定した成績を上げることが出来るようになった。そして秋には本格的な過去問演習に突入。合格計画はほぼ順調である。壁にぶつかることも何度かあったが、序盤の基礎固めが万全だった為、解決策はすぐに見つかる程度のものであった。数学では、解説の解法を修得するのは勿論のこと、自分の持っているスキルで問題に挑み、矛盾点がないか探るなど、貪欲に問題に向き合う一面も見せてくれた。大地が水を吸うように知識を取り込みながらも、自分のやり方・考え方を曲げない、鋼のような強固さも併せ持つ。志望校対策講座も積極的にこなし、準備は万全。そして本番に臨んだ。

担任との約束事で、内田は毎日の学習内容をカレンダーに記録し、提出していた。慶大・薬学部の受験日まで続いたそれを眺めると、綿密に組まれた学習計画であったことが分かる。過去問・模試の復習は勿論のこと、本科コースで行っていた小テストまでも完璧に復習をこなしていた。そのカレンダーに大きな星が一つあった。慶大の受験日に星のスタンプ。誰が押したのか尋ねると「SUPER STER」ですか? 私です。」と担任。願いを込めて押したのだそう。その日に彼女が「スーパースター」になれるようにと。

結果、見事 慶應義塾大学 薬学部 薬学科 合格。明治薬科大学 薬学部、昭和大学 薬学部を特待生合格。

そして 東京薬科大学 薬学部 合格。

何があっても一歩一歩前に進む直向さが今回の結果を生んだ。合格後、彼女は物理と生物の勉強を始めている。第一志望合格は彼女にとっては既に過去のこと、すぐに大学入学後の自分をイメージして行動に移し、新たなスタートを切った。「薬剤師として、これから先自分が社会とどのように関わっていけるか大学で見つけたいんです。薬剤師の活躍する場は私が知っていること以外にも沢山あるみたいなんです。それを見つけるのが楽しみです。」と彼女。彼女ならばきっと、薬と情熱で人を救う「スーパースター」になれるだろう。